



新ひだか町と文学

新ひだか町は、アイヌ民族の英傑シャクシャインの地元であり、また、明治の開拓期、淡路の稲田家家臣が静内に入植する事となった経緯（稲田騒動）から、両者に材を取った文学作品が多く描かれています。

1. 新ひだか町を舞台とする文学作品・映画

(1) 稲田家関連

『お登勢』（1969）『続 お登勢』（1973） 船山 馨/著 所蔵：地域資料]-ナ-・A27文庫棚

淡路島の貧農の娘お登勢は、洲本の加納家へ奉公に出ることになり、途中の船でであった勤王の志士で陪臣の青年津田貢に心惹かれる。しかし、徳島藩との対立状態の中で起こった庚午事変を機に、稲田家家臣達は北海道静内へ移住することになる。

先に渡道した津田貢の後を追って、お登勢も厳寒の北海道へと渡るが、その地で見出したのは、あまりにも厳しい大自然の驚異だった。さらにお登勢は思いもかけぬ苦境に立たされる。

『静かな大地』 池澤 夏樹/著 （2004） 所蔵：地域資料]-ナ-・A8・A27文庫棚

庚午事変後、新政府に命じられて淡路島から日高の静内（現在の東別地区）に入植した稲田家家臣・宗形三郎と四郎の兄弟は、地元アイヌの人々と協力して一大牧野を経営し繁栄していくが、やがて和人のねたみを買ひ…。

北海道にゆかりの深い池澤夏樹が、母方の曾祖父、原條新次郎をモデルに、アイヌ・モ・シリ（人間の静かな大地）と呼ばれた北海道で、近代化により多民族・多文化の大地としての精神性・歴史が次々と失われていく姿を、壮大に描いていく。

『北の零年』（DVD） （2005 公開） 行定 勲/監督 吉永 小百合/出演 所蔵：AV]-ナ-

明治4年、四国淡路島に暮らしていた稲田家主従は明治政府から北海道への移住を命じられる。北の原野に辿り着いた546名、そこには想像を絶する苦難が待ち受けていた…。最後のサムライとその家族の姿を綴る一大叙事詩。

(2) シャクシャイン関連

「シャクシャインの歌（詩）」 大島 流人/作 雑誌「シペシャリ」1969 所収 所蔵：閉架書庫

「シャクシャイン異聞」 橘 義男/著 （1995） 『輓馬祭』所収 所蔵：地域資料]-ナ-

『シャクシャインが哭く』 三好 文夫/著 （2002） 所蔵：地域資料]-ナ-

『シャクシャイン戦記』 大森 光章/著 （1972） 所蔵：地域資料]-ナ-

『シャクシャイン物語』 中野 みち子/作 （1985） 所蔵：児童B11 棚

『シャクシャインの戦い』 小暮 正夫/作 （1987） 所蔵：児童B11 棚

2. 新ひだか町ゆかりの文学者たち（ア行順）

伊部 幹雄（いべ みきお） 1932（S7）-2013（H25）

本名・成田達夫。詩人。新ひだか町在住。昭和29年21歳で第一詩集『背後』を出版、以後、毎年のように詩誌を創刊。昭和40年には詩誌「飛沫（しぶき）」を創刊し、八号から「炎」と改題し九十四号（昭和58年）まで刊行。

その後も「静内短歌」「日高PEN」「静内文芸」創刊に関わるなど活発な詩作活動を続けた。

大島 流人（おおしま るにん／るじん） 1877（明治10）-1941（昭和16）

静内村生まれ。本名経男。函館で教鞭をとりながら新詩社同人となり、「明星」に詩歌、評論等を数多く発表。明治39年に「紅苜蓿（べにまごやし）」が発行されるとその主催者となった。一時帰郷した際には、高静尋常高等小学校の代用教員を勤めた。

石川啄木は学識あり高潔謹厳な大島に終生変わらぬ尊敬の念を抱き、『一握の砂』の中で「とるに足らぬ男と思へ」といごとく山に入りなき神の如き友」と歌っている。

立花 杏葉（たちばな きょうよう） 1915（大正4）-不明

八戸市生まれ。本名・立花司。医学博士。俳人。立花病院院長。俳誌「あしかび」「道」会員。

〈主な著作〉・『句集 聴診器』（静内ペてかり吟社 1976） 『句集 薬莢』（道文庫 1983）

橘 善男（たちばな よしお） 1949（S24）-

旧静内町出身。小説家。教師生活の傍ら執筆活動を行う。

〈主な著作〉

- ・『輓馬祭』（近代文芸社 1995）『消さずの火 門屋養安天保異聞』（三一書房 1997）
- 『小説俳優座 わざおぎ狂乱』（烏影社 2001）ほか

堂本 茂（どうもと しげる） 1924（T13）-1997（H9）

愛媛県新居浜市生まれ。本名・永野滋之。医学博士。静内町の永野外科医院院長。

「空知野」「日高ペン」主催。「静内文芸」代表。

〈主な著作〉

- ・『壁』（日高ペンクラブ 1975） 『暗い森』（響文社 1995）
- ・『多少の縁』（北海道新聞社 1991） 『花の回廊』（近代文芸社 1991）ほか

向井 豊昭（むかい とよあき） 1933（昭和8）-2008（平成20）

東京都生まれ。北海道日高地方の小学校で25年間勤務した後、上京、同人誌等の活動を経て、1996年『BARABARA』で第12回早稲田文学新人賞を受賞。静内町・三石町では、御園小学校、梟舞小学校、田原小学校、高静小学校に勤務した。

〈主な著作〉※作品の一部はインターネットサイト「向井豊昭アーカイブ」で公開しています

- ・『BARABARA（バラバラ）』（四谷ラウンド 1999）
- ・『DOVADOVA（ドバドバ）』（四谷ラウンド 2001）
- ・『怪道をゆく』（早稲田文学会 2008）
- ・『鳩笛』（自費出版 1974） 『向井豊昭傑作集 飛ぶくしゃみ』（未来社 2014）

八木 栄一郎（やぎ えいいちろう） 1908（明治41）-2008（H20）

三石町生まれ。歌人。静内小ほか二校の校長を経て静内町教育長。退職後同町図書館長を務める。「日高路」「新墾」同人。静内短歌会長。歌集に、「黄梅」「日々」等がある。

〔参考資料〕『資料・北海道詩史』『北海道文学大事典』『新ひだか文芸』『大島流人伝』